

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年7月27日(2020.7.27)

【公表番号】特表2019-524188(P2019-524188A)

【公表日】令和1年9月5日(2019.9.5)

【年通号数】公開・登録公報2019-036

【出願番号】特願2018-566854(P2018-566854)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/88 (2006.01)

A 6 1 B 17/15 (2006.01)

A 6 1 B 17/17 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/88

A 6 1 B 17/15

A 6 1 B 17/17

【手続補正書】

【提出日】令和2年6月10日(2020.6.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

図3は、大腿骨100の頭部118の中心120を越えて延びるように大腿骨ヘッドファインダー1918を位置付けするステップを示す。この位置合わせは、画像化法、例えば蛍光透視法を使用して検証されてもよい。大腿骨ヘッドファインダー1918は、大腿骨ヘッドファインダー918または2918と類似していてもよくまたは同一であってよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

下方のバー1874は、凹部1004の両側に、左右両側性の(bilateral)ソケット1000、1002を含む。下方のバー1874は、下方のバー874または2874と類似していてもよくまたは同一であってよい。ブリッジ1878は、中央のブリッジ1006、および2つの脚1008、1010であって各脚はブリッジ1006の一端から延びおよび自由端において終端する脚、を備える馬蹄形状のまたはU字形状の部品(part)である。自由端は、それぞれ、タブ1012、1014を有する。各タブは、その先端で分岐して、弾性スナップ機能を形成する。ブリッジ1006は、背中合わせの(back to back)ポケット1018、1020間に延びる貫通スロット1016を含む。標的1882は、1つの端部においてボウル1024内で終端する細長い柄(stem)1022を備える概してスプーン形状のまたは柄杓形状の部品である。柄1022は、柄の長さに沿って延びるアンダーカットされたレール1026を含む。標的取り付けブロック1880は、長方形または正方形の貫通穴1028を備える概して長方形または正方形の本体を有する。アンダーカットされたチャネル1030は、標的取り付けブロック1880の1つの側部を横切りおよび穴1028を横切って延びる。標的取り付けブロック1880の反対

の側部は、アンダーカットされたチャネル 1030 に対して横方向または垂直に延びる左右両側性の棚またはレッジ 1032、1034 を含む。蟻継ロック 1881 は、本体の 1 つの側部から延びるねじ山が付けられたシャフト 1038 を備える、概して長方形または正方形の本体 1036 を含む、細長い部品である。左右両側性の棚またはレッジ 1038、1040 は、シャフト 1038 の反対の側部上で、本体のこの側部を横切って延びる。シャフト 1038 の反対側において、アンダーカットされたチャネル 1044 は、本体 1036 を横切って、左右両側性のレッジ 1038、1040 に対して横方向にまたは垂直に延びる。つまみねじ 1884 は、拡大されたマッシュルーム「キャップ」の反対側に、ねじ山が付けられたソケット 1048 を備える、マッシュルーム形状の本体 1046 を含む。フットレスバー 1872 は、フットレスバー 2872 と類似していてもよくまたは同一であってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0075

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0075】

大腿骨のピンブロック 1514 は、骨対向表面 1154 および反対側の上表面 1156 を備える略三角形のプレートである。骨対向表面 1154 は、前方大腿骨の切除 214 に対して (against) 位置付けられる。大腿骨のピンブロック 1514 は、遠位部分 1566 および近位部分 1568 を有する。大腿骨のピンブロック 1514 は、骨ピンを受け入れる幾つかの貫通穴 1162、1164、1166 を備えて例示され、2 つの取り付け穴 1168 が同様に示される。2 つの近位穴 1162 が示され、12 個の中央の穴 1164 が示され、および 4 つの遠位穴 1166 が示されるが、任意の数の穴が設けられていてよい。左右の穴 1162 は、それらが骨対向表面 1154 に近づくにつれて一緒に合流してもよい。穴 1164 の左の群および右の群もまた、それらが骨対向表面 1154 に近づくにつれて一緒に合流してもよい。穴 1166 の左の群および右の群は、大腿骨のピンブロック 1514 が大腿骨 100 に固定されたままである間に大腿骨の切除がカットされてもよいように、内側 - 外側方向に十分に広く間隔が空けられた個々の穴を含んでいてよい。これらの広く間隔が空けられた穴 1166 は、広く間隔が空けられた穴 1166 を通り抜ける骨ピンが上顎 (epicondyles) を貫通するように、取り付け穴 1168 の外側に位置していてよい。大腿骨のピンブロック 1514 は、広く間隔が空けられた穴 1166 を支持するように、示されるように広げられてもよい。大腿骨のピンブロック 1514 は、盲穴 1170 および貫通穴 1172 を含む。前述の穴 1162、1164、1166、1168、1170、1172 の全ては、少なくとも、大腿骨のピンブロックの上表面 1154 を通って延びる。遠位部分 1566 は、その近位表面にディンプル 1176 を含む横断的なアンダーカットされたチャネル 1174 を含む。